

問1 日本各地で首長の墓が作られ、広い範囲で勢力を広げていた当時の政治的なまとまりを何という？

1. 飛鳥政権 2. 平安政権 3. ヤマト王権 4. 奈良政権

問2 6世紀、百済から日本へ正式に伝えられ、日本の政治や文化に大きな影響を与えた宗教を何という？

1. 道教 2. 儒教 3. 神道 4. 仏教

問3 円形と方形を組み合わせた鍵穴のような形をしている、古墳時代に作られた日本最大規模の墓を何という？

1. 前方後方墳 2. 円墳 3. 方墳 4. 前方後円墳

問4 4世紀から7世紀にかけて近畿地方を中心に勢力を広げた勢力を何という？

1. ヤマト王権 2. 平安政権 3. 奈良政権 4. 飛鳥政権

問5 仏教を深く信仰し、政治や文化に取り入れることで、新しい文明の定着に努めた人物は誰？

1. 中大兄皇子 2. 聖徳太子 3. 物部守屋 4. 蘇我馬子

問6 世界遺産にも登録されている、日本最大規模の大仙古墳が位置する都市はどこ？

1. 奈良県天理市 2. 大阪府堺市 3. 岡山県岡山市 4. 群馬県太田市

問7 5世紀ごろ、日本へ移り住み、高度な技術や文化を伝えた人々が由来した朝鮮半島の国家を何という？

1. 高句麗 2. 任那 3. 新羅 4. 百済

問8 中国の歴史書『宋書』に記されている、ワカタケル大王（雄略天皇）と同一人物と考えられる王を何という？

1. 倭王武 2. 倭王興 3. 倭王珍 4. 倭王讃

問9 5世紀ごろ、日本に漢字や経典を伝えたと言われる、百済から来た人物は誰？

1. 恵美押勝 2. 阿知使主 3. 王仁 4. 弓月君

問10 ヤマト王権が鉄資源を求めて使者を派遣した、中国の当時の王朝を何という？

1. 南朝 2. 北朝 3. 東晋 4. 西魏

問11 埼玉県稲荷山古墳から出土した鉄剣に、その名が刻まれているヤマト王権の最高権力者は誰？

1. 継体天皇 2. 推古天皇 3. 欽明天皇 4. ワカタケル大王

問12 6世紀、日本への仏教伝来に際して、その導入に賛成した有力な豪族は誰？

1. 藤原氏 2. 蘇我氏 3. 中臣氏 4. 物部氏

問13 中国の歴史書に記されている、5世紀頃に南朝へ朝貢を行ったヤマト王権の5人の王をまとめて何という？

1. 倭の五王 2. 小野妹子 3. 聖徳太子 4. 三種の神器

問14 儒教の伝来とともに日本に広まった、孔子の教えを記した書物を何という？

1. 論語 2. 千字文 3. 日本書紀 4. 古事記

問15 5世紀ごろ、百済の博士として日本に派遣され、漢字とともに儒教を伝えた人物は誰？

1. 弓月君 2. 王仁 3. 恵美押勝 4. 阿知使主

問16 5世紀後半にヤマト政権の最高権力者が用いた称号を何という？

1. 天皇 2. 大王 3. 関白 4. 将軍

答え合わせ・解説

問1	答え 3 ヤマト王権	ヤマト王権は、古墳の築造や鉄製品の供給などを通じて各地の豪族を統制しました。王は各地の豪族に地位や官職を与え、権力体制に組み込んでいくことで日本全国への支配を強めました。前方後円墳が全国に築かれていることは、この勢力が全国に及んでいた証拠といえます。
問2	答え 4 仏教	仏教の伝来は単なる宗教の広まりにとどまらず、新しい文明の到来を意味しました。特に、仏教が持つ高度な建築技術、芸術、そして教えは、当時の朝廷にとって大きな魅力でした。そのため、仏教を受け入れるかどうかを巡り、蘇我氏と物部氏の間で激しい争いが起こるなど、政治的な影響も及ぼしました。
問3	答え 4 前方後円墳	前方後円墳は、円形と方形を組み合わせた日本独自の形状で、大和地方を中心に全国各地へ広がりました。大仙古墳などはその代表例です。これらの古墳には、亡くなった首長の力や地位を示す副葬品が多数納められていました。
問4	答え 1 ヤマト王権	ヤマト王権は、近畿地方を中心に各地の豪族と連合して国内を統治する政治組織です。有力な豪族を従え、朝鮮半島との外交や、大陸からの進んだ技術を取り入れることで富を蓄えました。大王を中心とした豪族の連合体という性格が強く、次第に中央集権的な国家へと変化していきます。
問5	答え 2 聖徳太子	聖徳太子は仏教の教えを「和」の精神として政治の基礎に据えました。「十七条憲法」を制定して役人の心構えを示し、「冠位十二階」で才能に基づいた官職登用を目指しました。また、法隆寺の建立などを通じて仏教文化を保護し、国全体に新しい文明が定着するように努めました。
問6	答え 2 大阪府堺市	大阪府堺市にある大仙古墳は、日本最大級の前方後円墳として知られており、周囲の古墳と共に「百舌鳥・古市古墳群」を構成しています。この地域は当時のヤマト王権の中心地に近い場所であり、強大な権力を持った支配者が存在したことを物語っています。
問7	答え 4 百済	百済から移り住んだ渡来人は、先進的な技術を持った職人や学者、僧侶などでした。彼らは日本の豪族と協力し、土木工事や農具の製作、さらには学問や宗教の導入に多大な貢献をしました。当時のヤマト政権にとって、百済は重要な協力関係にある国でした。
問8	答え 1 倭王武	中国の歴史書である『宋書』には、倭国の王の名前が記されており、その中の「武」は、国内の遺跡から発見された鉄剣の銘文にある「ワカタケル大王（雄略天皇）」のことだと考えられています。これにより、日本の歴史がアジアの国際情勢の中で位置づけられるようになりました。
問9	答え 3 王仁	王仁は伝説的な人物として『古事記』や『日本書紀』に記されており、百済の王から日本へ派遣されたと考えられています。彼は漢字を用いて記録する技術や、中国の古典を日本に伝えました。彼によってもたらされた知識は、当時の日本の知識層にとっての教科書となり、日本の文字文化の発展に決定的な影響を与えました。
問10	答え 1 南朝	ヤマト王権は、中国との外交関係を通じて、その権威を借りることで半島への影響力を強めようとした。中国へ使者を派遣して朝貢することで、最新の技術や鉄資源を優先的に入手しようとしたのです。当時の中国は南北朝時代であり、南方に位置する「南朝」と主に外交関係を持っていました。
問11	答え 4 ワカタケル大王	ワカタケル大王は、当時のヤマト王権の最高権力者で、一般に雄略天皇と同一人物であると考えられています。稲荷山古墳の鉄剣に名前が刻まれていることは、当時の王権が東国にまで影響力を持っていたことを強く示しています。
問12	答え 2 蘇我氏	蘇我氏は、百済から伝わった仏教の持つ高度な知識や技術にいち早く目をつけました。彼らは仏教を支持することで、他の豪族との競争において優位に立ちとうと考えました。一方、物部氏などの反対勢力は、伝統的な神々を軽視するものとして武力で対立しました。最終的に蘇我氏が勝利し、仏教が公認されることとなりました。
問13	答え 1 倭の五王	記録に残る王は、讚・珍・濟・興・武の5人です。特に最後の「武」は、国内から出土する鉄剣の銘文に見られるワカタケル大王と同一人物であると考えられています。彼らは中国皇帝に軍事的な支持を求める使節を送り、国内の権威付けを行いました。
問14	答え 1 論語	『論語』は、家族の絆や社会での礼儀、指導者としての誠実さを説いた書物です。日本に伝わると、漢字の学習教材として活用されるだけでなく、統治者やエリートの道徳的教養として大切にされました。この書物を通じて、日本人は「人としてのあり方」や「社会秩序」という考え方を学びました。
問15	答え 2 王仁	王仁は百済から派遣された博士であり、優れた学識で日本の朝廷に貢献しました。彼が『論語』や『千字文』をもたらしたという伝説は、日本の学問が大陸から本格的に導入されたことの象徴とされています。王仁の存在は、日本人が漢字を習得し、中国の進んだ統治の知恵である儒教を学びきっかけとなったとされています。
問16	答え 2 大王	この時期の最高権力者は「大王（おおきみ）」という称号で呼ばれ、各地の豪族を従えて国を治めました。埼玉県や熊本県の古墳から出土した鉄剣の銘文にも「ワカタケル大王」という記述が見られ、当時の王権が地方へ影響力を持っていたことがわかります。